

平成 25 年度

筑前町教育委員会の権限に属する事務の管理
及び執行状況についての点検及び評価報告書
についての学識経験者による意見

1. 福岡県立朝倉東高等学校 元校長 谷口好幸

2. 福岡教育大学 教授 飯田慎司

谷口好幸

平成25年度筑前町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について、意見を述べます。

I 教育委員会の活動

1 教育委員会の会議の運営改善

委員全員が出席できるよう日程調整するなど、努力をしていることは評価したい。しかし、開催日を特定せず、委員会時に次回開催日を決めるやり方は、町民にとって傍聴を予定することが難しく、傍聴者数低迷の一因になっていないか検討の要があると考えます。

2 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信

会議の傍聴者数増に努力していることは大いに評価したい。しかし現実として4名であり、その原因が仮に町民の側にあったとしても、「地域住民への情報発信」ということからすると、如何なものかと考える。開催日を固定化すれば、傍聴を希望する町民は予定を立てやすく、傍聴者増に繋がらないだろうか。

3 教育委員会と事務局との連携

事務局と教育委員会が連携し、共通理解を図ることは当然のことであり、積極的に取り組んでいることは評価したい。

町当局と町民が一体となって筑前町の教育を考え、子どもの将来を思う時、事務局が有する過去のデータ、教育現場の実状を共通に理解し、「情報発信」し、将来に生かそうと努力していることは大いに評価したい。

4 教育委員会と首長との連携

折しも首長の教育権限が検討されている時でもあり、委員会が首長との連携を強化し、共通に認識するなど、課題解決に努めていることは評価できる。

町のトップが我が町の教育状況を常に正しく認識し、将来の筑前町を担う青少年育成のため、共に教育施策執行に努めることは重要であると考えます。

5 教育委員の研修

研修会参加や先進地視察等を行い、教育委員自らが自らを高める努力をされていることは、筑前町の子どもの教育力を高めることに繋がり、評価できる。

専門的な研修会への参加だけでなく、本町学校教育の在り方や子どものあるべき未来像などについて、小・中学校の教員と共に協議することも研修の一つと考える。

6 学校及び教育施設に対する支援・条件整備

学校を訪問し、子どもの施設利用状況を直接見るなど、本町の教育環境を知ること
は大変重要なことであり、積極的に実施していることは評価したい。

実情を知らずして、将来を語ることはできないことから、子どもの実態を見、教員
の思いを聞くなど、教育環境を知った上で、教育委員として本町教育の将来ビジョン
を考え、施策に生かすよう努めて欲しい。

II 教育委員会が管理・執行する事務

「学校教育推進25」並びに「社会教育推進25」を事務局で作成し、教育委員会
で審議、決定するなど、連携して教育の充実のために取り組んでいることは家庭教育、
学校教育、社会教育の重要性から大いに評価したい。

「筑前町教育施策説明会」に参加し、各学校の先生方の取り組みと意気込みを感じ、
安心感を覚えた。加えて教育委員会の指針、報告も聞くことができれば、町民の教育
に対する関心もまた違ったものになるのではないかと、という思いもした。

教育というと学校教育のみが重要視されがちで、家庭教育や社会教育が薄れつつあ
るのではないと言われる今日、学校教育及び社会教育に関する一般方針を定め、学
校や公民館、図書館の設置の決定、その他関係職員の任免等を行うなど、教育施策に
ついて幅広く努力されていることは大いに評価したい。

また、校長や教員、その他教育関係職員に対する研修を町単独のものとして体系化
し、実施していることは大いに評価したい。

また、校長や教員、その他教育関係職員に対する研修を単独のものとして体系化し、
実施していることは大いに評価したい。

しかし、〇〇協議会や〇〇審議会を設置するなどのハード面の充実も勿論重要であ
るが、町民や教育に直接携わる教員の教育に対する考え方、思いなどソフトの面も委
員会として示すことができると考える。

III 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

1 地域に開かれた学校づくりの推進

中学校区で合同の学校運営協議会を開催し、コミュニティ・スクールの推進を図る
などした結果、児童・生徒の規範意識が向上しつつあることは大いに評価したい。

近年、小・中一貫教育、あるいは小・中連携教育が進められ、その成果が注目され
ている折でもあり、今後とも更なる研究の推進を図って欲しい。

小・中学校の教員同士の連携だけでなく、主題の「地域に開かれた学校づくりの推進」
という観点から、地域社会との連携を図ることによって、地域力を活用することは考
えられないか。本町は町外から転居してきた住民も多いことから、それらの人の多様
な知識や体験を活用するなどして、地域の教育力向上を図る教育施策を考えることも

一策ではなかろうか。

2 確かな学力をはぐくみ個性や能力を伸ばす教育の充実

各学校が課題解決に向けて熟議した内容を、具現化できるよう教育委員会が支援していることは評価できる。

また、教育の機会均等を図る体制整備や学力の定着を図る場の確保・充実などに努めていることは評価できるし、今後とも一層の推進を望みたい。

学校と教員が行う学校教育の使命は、多様な期待もあろうが、一に学力を伸ばすことにあると考える。授業料や交通費を要する町外の私立中学校に通学する、筑前町の小学校を卒業した子どもが少数でもいることは、保護者や地域住民の教育に対する価値観もニーズも多様化している中であっても、なお学校教育に学力向上を期待している証とも言える。

しかし、町の「塾に頼らない教育」が功を奏して、年々減少して最近ではごく少数になっている事実は評価に値するものである。

近年の少子化や核家族化、両親の共働きを考える時、兄妹や親などから勉強を見てもらふ機会が少なくなっている現実もある。それらのことから、サマースクールを行うなどの施策は、学力向上を目指す観点からも大変素晴らしく、勉強の仕方や勉強に対する考え方についての指導など重要なことであり大いに評価したい。

さらに、町単独でのALT雇用は、社会が国際化している今日、時宜を得た教育施策であり、更なる充実・推進を期待したい。また教員も学生も約半数が外国人という、大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学（APU）との協力は考えられないだろうか。

3 心づくり・体づくりの推進

食育やキャリア教育、ボランティア活動の推進、道徳教育の充実・改善を教育施策の重点項目として挙げ、取り組んでいることは大いに評価できる。

「最近の子どもは体格は良いが、体力がない」、「安心・安全であるはずの学校でのいじめが原因で児童・生徒が自ら命を絶つ」ということを聞く昨今、町指定「心に響く道徳の時間の授業づくり」を基に、道徳教育の充実を図る取り組みは今後とも大いに推進して欲しい。

4 いじめ・不登校に対応する生徒指導体制の確立

数年前の本町教育の場における不幸な出来事を教訓として、再び繰り返すことのないよう教育施策化し、学校が最も安全で安心できる学びの場になるよう、町費でのスクールカウンセラーを配置するなど、支援体制の整備に努めていることは、大いに評価し賞賛したい。

加えて、児童・生徒に「好かれる先生」も必要であるが、「信頼される先生」、「尊敬される先生」の養成についても検討して欲しいものとする。

5 特別支援教育の充実

特別支援を要する児童・生徒を守るべく、関係機関とのネットワークの構築や特別支援教育支援員を町費で各学校に配置するなど、積極的に諸施策を構築し、教育施策として推進されていることは、保護者に安心と信頼を覚えさせることになり評価できる。

支援を要する子どもを持つ保護者は、子どもの将来を案じ、その対応に苦慮していることを考えると、教育委員会が中心となって学校や教員、地域社会と連携してそれに応えるよう努めて欲しい。

6 人権教育の推進

改めて言うまでもなく、誰にも人権は等しくあり、何人といえども差別してはいけないことは当然のことである。しかし未だに、社会的に課題があることもまた現実である。これらは、特別な時間を設けて行えば解決する問題ではなく、日頃から家庭や学校、社会生活の場において培われるよう、日常的に心掛けるべきものであり、公民館活動や子ども会活動、その他地域の諸活動を利用して日頃から行うべきと考える。

このことから、児童・生徒に接する時間が長い家庭や地域社会に対し、何よりも大人自身に対して人権啓発を教育委員会がリーダーシップを発揮し、より良い筑前町づくりのための努力を期待したい。

7 教職員の資質向上と人材育成

学校教育に望むことは様々あることと思うが、一般的には学力の向上にあると考える。子どもの学力伸長を図るには、何よりもその教育を担う教員の資質向上にあることは言うまでもない。そこで、教職員の資質向上を図る人事評価の推進、派遣研修や人事による人材育成を図るなど、長期的に計画を策定し、推進していることに町教委の思いを感じることができた。

本年、夜須中学校と東小田小学校の入学式、運動会、そして筑前町教育施策説明会に出席する機会を得たが、先生方の意欲的な説明や子どもに接する姿勢を見て、教育施策の浸透を感じ、安心感と将来への期待を覚えた。

(社会教育)

近年、教育というと学校教育のみが論じられ、子どもの人生の根幹をなす家庭教育、人としての繋がりを形成する、社会教育が疎んじられたものになっているのではないかと、という思いがある。社会は核家族化と都市化が進展し、高齢化が進み経験豊富な老人が

いるにも拘らず同居することもなく、地域の連携が希薄化する傾向にあり、地域住民相互間の結びつきが弱体化しているように思える。

かつては「教育」と銘うって学校教育でやらなくても、日常的に家庭や地域社会で無意識的に行われ、体験していたことが、殊更に行われていること自体に違和感を覚える。

そのような状況を鑑みた時、公民館活動や成人事業、図書館の充実、読書活動の推進、スポーツ少年団による青少年の心身育成など、多様なニーズに応えるべく自主文化事業の充実に努めていることは大いに評価できる。

おわりに

筑前町の教育委員会が学校教育の充実・推進をはじめ、社会教育や家庭教育にまで踏み込んで諸施策を構築し、実行されていることは大いに評価したい。

例えば、本町の小学校を卒業して、町外の私立中学校に通学する者が年々減少し、学力調査において国及び県を上回ったこと、そして前述した入学式や運動会での先生方の児童・生徒への対応からもみることができ、期待感が更に大きくなったところである。

人口減少期の今であっても、人に「夢」を感じさせることができれば、人は集まり、減少傾向の解消に繋がる。その一つとして、教育の力は大きいものとする。

学校教育の対象である児童・生徒が20～30年後には、筑前町を担う地域住民となることを念頭に教育施策を構築し、積極果敢に実行して欲しい。

飯田 慎 司

平成 25 年度筑前町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について、意見を申し述べます。

I 教育委員会の活動について

教育委員会は会議規則に基づき、計画的に開催されている。会議開催について議会事務局に通告する等の取り組みがなされ、平成 25 年度には 4 名の傍聴者があった。今後は、会議開催についてホームページへの掲載を行うなどの広報の検討を行うとともに、会議録の公開について、ホームページに議事録の要約筆記の掲載を継続することとしている。

教育委員の研修については計画的に行われている。筑前町における課題に関する研修がいかに行われているかについての情報提供があるとよいと考える。たとえば、毎年 11 月上旬に全国市町村教委研修協議会の研修会に全員が参加しているので、研修内容やその成果を具体的に示すような試みがあるとよいのではないだろうか。学校及び教育施設に対する支援・条件整備については、学級参観型の訪問を 4 校、教育委員との意見交換会を 1 校実施しており、支援等の工夫が見られるように思われる。

II 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について、平成 20 年度事業から自己評価等が実施され、平成 22 年度事業から学識経験者による外部評価が行われている。委員会窓口での閲覧に加えてホームページ等での公開が必要であるとされているので、検討していただきたい。また、社会教育委員及び公民館運営審議会委員を経るべき議案について意見を申し出ることについて、当たり前のことがきちんと実践できる子どもの育成を目指すための一つの方策としての「子どもの約束」について、社会教育委員の会議から平成 24 年度に答申を受けている。そして平成 25 年度に教育施策説明会で発表するとともに、広報紙等にも掲載して啓発を図っている。この取り組みについては、学校だけでなく家庭や地域とともにある教育の基盤づくりとして大いに評価したい。

III 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(学校教育)

1. 地域に開かれた学校づくりの推進

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の推進についての成果として、平成 25 年度は、熟議した内容の具現化において進展があったと評価できる。地域の独居老人へ児童が育てた花を贈る活動や、地域のボランティア等と連携した防災教育・防災訓練の実施などがなされている。また、学校運営協議会の活動を、学校通信だけではなく、地域住民等へもホームページ等を通した広報がなされるようになってきている点も評価したい。学校評価の効果的運用については、評価の観点や妥当性を検討していくこととしており、

適正な取り組みがなされていくことを期待したい。

2. 確かな学力をはぐくみ、個性や能力を伸ばす教育の充実

教育の機会均等を図る体制整備について、ICTを活用した学力の育成についての研究実践や、ユニバーサルデザインの授業づくりの視点を生かした授業改善が行われているが、これらの取り組みに関する評価に関連して、「授業がどのように変わったのか」という視点が大切であると考えます。定期的な学校訪問を実施し、キャリアステージに応じた指導支援を計画的・継続的に行うこととしており、地道な取り組みに期待したい。学力の定着を図る場の確保・充実について、学力調査で課題があった問題に対応する「フォローアップ資料」を活用した指導の充実が図られているが、こうした取り組みを継続的に行っていただきたい。進路獲得に向けたサマースクール、ウィンタースクールの充実にも期待したい。

教員の実践的指導力の向上について、筑前町研究指定・委嘱事業が一定の成果を挙げていると感じている。平成25年度は、夜須中学校の「心に響く道徳の時間の授業づくり」や、三並小学校の「ICTを活用した学力の育成」の研究を通して、筑前町の小・中学校教員の実践的指導力の向上を図る取り組みがなされた。平成26年度にも研究は継続されるので、発表会を通じた研究成果の普及・啓発が期待できると思われる。

町一体となった学力向上の気運の醸成について、学力テストの分析結果等について町広報紙を通じて町民へ普及啓発できたことや、サマースクール、ウィンターキャンプの紹介を行ったことは評価できる。しかしながら、家庭学習の時間や内容の向上につなげていくための町一体となったさらなる取り組みを期待したい。

3. 心づくり・体づくりの推進

キャリア教育における小・中一貫のカリキュラムを作成し配布したことは評価できる。また、中学生が校区内の小学校に出向いて学習支援を行ったり、地域の行事等にボランティアとして積極的に参加したりしているのは、筑前町の従来からの素晴らしい取り組みである。道徳教育の充実・改善として、夜須中学校の「心に響く道徳の時間の授業づくり」の研究が、各校の道徳教育の充実につながるとともに、道徳教育に関する小・中一貫カリキュラムの年間指導計画への位置づけや実践例の蓄積にも生かされることを期待したい。

4. いじめ・不登校に対する生徒指導体制の確立

適応指導教室で、学校への復帰支援と学力の保障を行い、3名の生徒を高校へ進学させることができている。また、スクールソーシャルワーカーが計画的に学校訪問を行い、個別の問題等の解決に向けた効果的な活用が図られている。さらに、いじめに特化したアンケートや校内対策委員会を計画的に実施して、いじめの早期発見に取り組むことや、

専門家による人間関係形成能力育成に関する効果的な教員研修を行うことなどが改善・推進策として挙がっており、今後も着実な成果が期待される。

5. 特別支援教育の充実

普通学級に在籍する発達障害が疑われる児童・生徒の個別の指導計画を作成し、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを充実させることが改善・推進策に挙がっており、その成果を期待したい。ユニバーサルデザインの授業づくりに関する研究からも示唆が得られるものと思われる。

6. 人権教育の推進

教育施策説明会だけでなく、定期的な学校訪問によって、学校の教育活動全体を通して人権教育の推進を図るよう指導・支援を行っている。また、「人権が尊重される授業づくりの視点」を明らかにし、授業に生かすことができた点を評価したい。

7. 教職員の資質向上と人材育成

人事評価に関して、各学校で個票を作成し、校務、学級経営、授業等における客観的な評価を行うとともに、各学校で計画的に個人面談を実施している。また、経験年数や職務内容に応じた研修を行えるようにしている点も評価したい。

(社会教育)

1. 特色ある学習プログラム提供による成人事業の充実

成人学級・講座について、単に学ぶことだけではなく、人と人とのつながりを醸成し、その活動を地域に広げることのできるプログラムを準備し、地域や学校への学習成果の還元を図ることが改善策に挙がっており、その成果に期待したい。

2. 子ども読書活動推進計画をはじめとした読書活動の推進

「毎月23日は読書の日」とし、この日は省テレビ、省ゲームデーで家族で読書活動を行う日として啓発しており、具体的でわかりやすい取り組みとして評価できる。今後も、住民の生涯学習拠点として、住民のニーズに即した資料提供が望まれる。

3. 生涯スポーツの普及促進による健康増進

例年行われている活動がほとんどのものである。後継指導者の育成のための工夫等を期待したい。

4. 多様なニーズに応える自主文化事業の充実

毎年度、多様なニーズに応じて同事業が行われており、継続的な働きかけや申請等によって、計画的に実施されていることを評価したい。参加型の企画によって、聴くことや観ることに加えて体験する機会も提供して、町民ホールや文化施設の使用促進を図る取り組みに期待したい。

5. 様々な体験活動による青少年の健全育成

5年生対象の子ども会議を受けて、1泊2日の6年生交流会が行われたことは大いに評価できることである。今後も継続的に実施して、魅力あるプログラムやスケジュールを工夫していただきたい。

6. 「子どもの約束」の推進及び啓発

平成24年度に策定された「子どもの約束」に関して、教育施策説明会で発表し、周知のためのポスターを作成し、広報紙にも掲載して広く啓発を図っていることを大いに評価したい。今後は、家庭への普及促進を図っていただきたいと考える。

7. 人権フェスタ及び人権セミナーの充実

人権フェスタ及び人権セミナーについては、自己評価がBとなっているので、今後の改善を期待したい。

8. 文化の振興

文化財の保存・活用についての自己評価がAとなるように取り組んでいくことを期待したい。

IV おわりに

各事業の点検・評価の結果、教育施策の実現に向けて着実な成果が認められる。

学校教育に関する施策に関しては、コミュニティ・スクールを町内の全小・中学校に拡大して2年目ということもあって、学校運営協議会で熟議した内容を具現化すること等において進展が見られる。学力向上や生徒指導等の課題に関しては、家庭と地域を巻き込んだ教育の基盤づくりにさらに取り組んでいただきたい。

社会教育に関する施策に関しては、社会教育委員の会議からの答申を受けて策定された、筑前町「子どもの約束」の啓発や普及促進の取り組み等において進展が見られる。筑前町らしい取り組みとして大いに評価したい。